

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I -1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	渡邊 博亮	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を習得する。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。 個体の生命を維持するための循環器系、呼吸器系の構造と働きを学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系の構造と機能について理解することができる。 ・血液の構成と機能について理解することができる。 ・呼吸器系の構造と機能について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖生理 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	自分の体のどの部分の話か、イメージできるように図を書くことができるようにする。

【授業計画】構造機能学 I -1 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	人体の構成【体液と恒常性】	体液の性質、恒常性	講義
	2	循環系【概要・心臓】	心臓血管系、心臓の構造	講義
	3	循環系【心臓】	心筋の性質、刺激伝導系	講義
	4	循環系【心臓】	心臓の活動と検査	講義
	5	循環系【血管系】	動脈・静脈・毛細血管	講義
	6	循環系【肺循環・体循環】	肺循環、動脈系	講義
	7	循環系【体循環】	静脈系	講義
	8	循環系【各部位の循環】	冠循環、顔面と頭部の循環、脳循環 筋循環、腹腔内循環	講義
	9	循環系【各部位の循環】	骨盤臓器・腎部の循環、上肢・下肢の 循環	講義
	10	循環系【各部位の循環】	胎児循環	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	循環系【血圧】	血圧と脈拍、血圧の調節	講義
	14	循環系【リンパ系】	働き、リンパ循環、リンパ系器官	講義
	15	血液【成分、赤血球】	血液とその成分、赤血球	講義
	16	血液【白血球、血小板と止血機構、血液型】	白血球、血小板、止血機構、血液凝固	講義
	17	呼吸器系【総論・鼻腔と副鼻腔】	呼吸器系の構成と役割、鼻腔の構造	講義
	18	呼吸器系【咽頭・喉頭・気管・気管支】	咽頭・喉頭・気管・気管支の構造	講義
	19	呼吸器系【肺・縦隔】	肺の構造と縦隔	講義
	20	呼吸器系【呼吸とその調節】	呼吸筋と呼吸運動、呼吸機能の測定	講義
	21	呼吸器系【呼吸とその調節】	ガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬	講義
	22	呼吸器系【呼吸とその調節】	呼吸の調節	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅱ－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	山村 聡	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を習得する。身体を構成する骨と筋の基礎的な構造と機能を習得する。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。 身体を構成する運動器の、骨と筋および基礎的な運動の関連を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 骨・関節・筋の組織構造・分類、機能について理解することができる。 体幹、上肢、下肢、頭頸部を構成する骨、筋、運動について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖生理 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験60%と小テスト40%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】構造機能学Ⅱ－1 2023年度 鍼灸科Ⅰ部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	運動器【概論】	運動の仕組み・解剖学用語	講義
	2	運動器【概論：骨】	骨の構造と機能	講義
	3	運動器【概論：関節】	関節の構造と機能	講義
	4	運動器【概論：筋】	筋収縮の機構、骨格筋の分類と補助装置	講義
	5	運動器【全身の骨格、脊柱】	全身の骨格、脊柱の彎曲、椎骨の一般的形状	講義
	6	運動器【脊柱】	各椎骨の特徴、連結	講義
	7	運動器【胸郭】	胸郭を構成する骨	講義
	8	運動器【上肢の骨格】	上肢帯、上腕骨	講義
	9	運動器【上肢の骨格】	前腕骨、手の骨	講義
	10	運動器【上肢の関節】	上肢の各関節	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	運動器【下肢の骨格】	寛骨と骨盤	講義
	14	運動器【下肢の骨格】	大腿骨、膝蓋骨、下腿骨、足の骨	講義
	15	運動器【下肢の関節】	下肢の各関節	講義
	16	運動器【頭蓋骨】	脳頭蓋、縫合と泉門	講義
	17	運動器【頭蓋骨】	顔面頭蓋	講義
	18	運動器【頭蓋骨】	頭蓋の腔所、顎関節	講義
	19	運動器【関節可動域】	関節可動域（ROM）	講義
	20	運動器【体幹部の筋】	深背筋	講義
	21	運動器【体幹部の筋】	深胸筋、横隔膜	講義
	22	運動器【体幹部の筋】	骨盤底筋、腹筋、鼠径靭帯	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	運動器【上肢の筋】	上肢帯の筋	講義
	26	運動器【上肢の筋】	上腕の筋	講義
	27	運動器【上肢の筋】	前腕の筋	講義
	28	運動器【上肢の筋】	手の筋	講義
	29	運動器【下肢の筋】	下肢帯の筋	講義
	30	運動器【下肢の筋】	大腿の筋	講義
	31	運動器【下肢の筋】	下腿の筋	講義
	32	運動器【下肢の筋】	足の筋	講義
	33	運動器【頭頸部の筋】	表情筋、咀嚼筋	講義
	34	運動器【頭頸部の筋】	頸部の筋	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	坂本 收司	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造と機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造と機能について習得する。身体を構成する細胞と組織、神経系、感覚器系の構造と機能を習得する。
授業の一般目標 (G10)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。 生命の最小単位である細胞とそれによって構成される組織の種類、生体の機能維持に関与する神経系とその機能の一つである感覚器系の構造と機能について学習する。
到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構成と機能について理解することができる。 ・組織の種類と器官について理解することができる。 ・神経系について理解することができる。 ・感覚器系について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖生理 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社)
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習、復習を行うこと
履修にあたっての留意点	自分の体のどの部分の話か、イメージできるように図を書くことができるようにする。

【授業計画】 構造機能学Ⅲ－1 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	人体の構成【細胞】	細胞膜、細胞質と細胞小器官	講義
	2	人体の構成【細胞】	遺伝子、細胞死	講義
	3	人体の構成【組織と器官】	上皮組織	講義
	4	人体の構成【組織と器官】	支持組織、筋組織、器官・器官系	講義
	5	神経系【神経系と神経組織】	分類、神経組織	講義
	6	神経系【興奮と伝導】	静止電位、活動電位、伝導の仕組み	講義
	7	神経系【シナプス伝達】	シナプスの特徴、神経伝達物質	講義
	8	神経系【中枢神経系】	構造と統合機能	講義
	9	神経系【中枢神経系：大脳】	新皮質、辺縁系、基底核、白質	講義
	10	神経系【中枢神経系：間脳、脳幹】	視床、視床下部、脳幹、中枢	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	神経系【中枢神経系：小脳、脳波】	小脳、脳波と睡眠	講義
	14	神経系【中枢神経系：脊髄】	脊髄の外観・断面・機能	講義
	15	神経系【中枢神経系：保護と栄養】	髄膜、脳室、脳脊髄液、脳血流	講義
	16	神経系【伝導路】	運動性の下行路、感覚性の伝導路	講義
	17	神経系【運動調節：骨格系の神経支配】	骨格筋の神経支配	講義
	18	神経系【運動調節：運動反射】	脊髄反射、姿勢反射、運動の調節	講義
	19	神経系【末梢神経系：脳神経】	脳神経の名称、構造、機能	講義
	20	神経系【末梢神経系：脳神経】	脳神経の名称、構造、機能	講義
	21	神経系【末梢神経系：脳神経】	脳神経の名称、構造、機能	講義
	22	神経系【末梢神経系：脊髄神経】	脊髄神経の起始部、走行、頸神経叢	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	神経系【末梢神経系：脊髄神経】	腕神経叢	講義
	26	神経系【末梢神経系：脊髄神経】	腰神経叢、仙骨神経叢	講義
	27	神経系【末梢神経系：自律神経】	特徴、走行	講義
	28	神経系【末梢神経系：自律神経】	機能、調節	講義
	29	神経系【末梢神経系：自律神経】	内臓求心性神経、反射性調節、中枢	講義
	30	感覚器系【概要、特殊感覚】	種類、特徴、視覚	講義
	31	感覚器系【特殊感覚】	聴覚、平衡感覚	講義
	32	感覚器系【特殊感覚・体性感覚】	味覚、嗅覚、皮膚の構造と機能	講義
	33	感覚器系【体性感覚・内臓感覚】	表在感覚、深部感覚、伝導路、内臓感覚	講義
	34	感覚器系【体性感覚】	痛覚	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【科目】 診療の基本－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	渡邊 博亮	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造と機能とともに診療の基本事項について習得する。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造と機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。個体の生命を維持するための消化器系の構造と働きを学習する。
到達目標 (SBOs)	・消化器系の構造と機能について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖生理 東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 診療の基本－1 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	消化器系【総論】	消化器系の構成と役割、口腔の構造	講義
	26	消化器系【口腔】	咽頭・食道・胃の構造	講義
	27	消化器系【咽頭・食道】	小腸・大腸の構造	講義
	28	消化器系【胃】	肝臓と胆嚢の構造	講義
	29	消化器系【小腸】	膵臓の構造と腹膜	講義
	30	消化器系【大腸】	消化管の運動	講義
	31	消化器系【膵臓】	唾液・胃液・膵液とその分泌調節	講義
	32	消化器系【肝臓・胆嚢】	膵液・胆汁・腸液・大腸液とその分泌調節	講義
	33	消化器系【腹膜・腹膜腔、食欲】	消化液、消化管ホルモンの種類と働き	講義
	34	まとめ	消化器系のまとめ	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【科目】 保健医療福祉学

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	高橋 恵	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	公衆衛生学とは健康を維持増進させる学問である。理想的な健康像とはどういうことなのか、健康管理は個人や行政ではどのように考え、実践されているか、地球温暖化などの地球的規模の環境問題から空気・水・食品など私達を取り巻く生活環境に関する知識、職業がどのように健康に影響を与えるのか、生活習慣病の実態と予防はどうなっているのかといったことなどを学んでいく。
授業の一般目標 (G10)	責任感を持ってはり師、きゆう師としての業務を行うために、わが国の衛生状況の概要を理解する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法規、職業倫理について理解することができる。 ・衛生・公衆衛生学の意義について理解することができる。 ・健康の概要、健康管理について理解することができる。 ・衛生行政、医療制度と医療保険について理解することができる。 ・食品と栄養、食品と疾病、食品加工と添加物、食中毒について理解することができる。 ・運動と健康について理解することができる。 ・環境と健康について理解することができる。 ・日常生活環境について理解することができる。 ・公害、地球規模の環境問題について理解することができる。 ・労働災害とその対策について理解することができる。 ・精神保健について理解することができる。 ・母子保健について理解することができる。 ・生活習慣病について理解することができる。 ・感染症について理解することができる。 ・消毒について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	衛生学・公衆衛生学、臨床医学各論（東洋療法学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 保健医療福祉学 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	導入、衛生・公衆衛生学の意義	衛生・公衆衛生学の定義、WHOの役割	講義
	2	健康の概要	健康の定義、疾病の自然史、疾病の予防	講義
	3	健康管理・健康増進	健康管理(集団検診)の条件、健康日本21(第2次)(飲酒・喫煙)	講義
	4	衛生行政、医療制度と医療保障	保健所と市町村の役割、医療保険の特徴	講義
	5	医療制度と医療保障	医療保険の特徴、国民医療費、あはき療養費	講義
	6	食品と栄養、食品と疾病	食生活指針、保健機能食品、栄養素の欠乏・過剰	講義
	7	食品加工と添加物	食品添加物、経口の寄生虫症	講義
	8	食中毒、BSE	食中毒(細菌性、ウイルス性、動・植物性、その他)、BSE	講義
	9	運動と健康	運動の意義、健康の維持増進	講義
	10	まとめ		講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	環境と健康、日常生活環境	物理学的環境要因 (温熱、騒音、振動、電離・非電離放射線)	講義
	14	日常生活環境	化学的環境要因 (空気、上下水道、有機化合物・発癌性物質)	講義
	15	日常生活環境	廃棄物、生物学的環境要因(室内、し尿処理)など	講義
	16	公害	典型7公害の主なエピソード	講義
	17	地球規模の環境問題	有害物質の体内蓄積と生物濃縮、環境ホルモン、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化	講義
	18	産業保健、産業保険の意義	産業衛生の意義、産業衛生の三管理	講義
	19	労働災害とその対策	労働者災害補償保険、業務上疾病、職業病	講義
	20	精神保健の意義、分類	統合失調症、感情障害(うつ病)、適応障害、認知症など	講義
	21	精神保健の現状、医療・保護	精神障害者に対する医療及び保護	講義
	22	まとめ		講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	母子保健の意義、母胎乳幼児の健康	母子保健水準の指標	講義
	26	母胎乳幼児の健康つづき、成人・高齢者保健の意義	乳幼児保健対策、少子化対策(リプロダクティブヘルス含む)、加齢と老化対策	講義
	27	生活習慣病対策	生活習慣病の特徴(特定健康診査・保健指導)	講義
	28	介護保険	介護保険制度(介護保険法)	講義
	29	感染症の意義と種類、予防の原則	病原微生物の種類と感染症、感染症発生要因	講義
	30	感染症予防の原則	感染症発生要因への対策(感染源・感染経路)、感染症法	講義
	31	免疫	宿主の感受性への対策(免疫、予防接種)	講義
	32	消毒法一般	消毒と滅菌の違い、物理的消毒法	講義
	33	消毒の種類、消毒の実際	化学的消毒法、医療廃棄物の処理	講義
	34	まとめ		講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学概論－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	佐々木 治子	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	東洋医学の沿革について学ぶ。また東洋医学の基本的な考え方である陰陽学説や五行学説をもとに、精・気・血・津液の生理・病理・病証、六臓六腑の生理・病理・病証や経絡について学ぶ。病気を引き起こす原因についても東洋医学的に学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学における哲学的理解を学習する。 ・基礎概念である陰陽五行、気血津液などを学習する。 ・蔵象と病因病機の機序を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学の沿革について理解することができる。 ・治療論と治療法の概略について理解することができる。 ・天人合一思想～五行学説について理解することができる。 ・陰陽学説、五行学説について理解することができる。 ・五行分類について理解することができる。 ・精(先天の精・後天の精)と神について理解することができる。 ・真気的作用および特定の気的作用について理解することができる。 ・血・津液的作用について理解することができる。 ・蔵象について理解することができる。 ・病因について理解することができる。 ・病証、八綱病証について理解することができる。 ・気血津液弁証について理解することができる。 ・代表的な疾病について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論 (教科書検討小委員会)
参考書	漢字辞典
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	複雑な漢字や現代医学と異なる理論が展開されるので、柔軟な考え方で受け入れることが必要である。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学概論－1 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態	
1期	1	東洋医学の沿革	古代中国医学と現代医学との相違	講義	
	2	治療論と治療法の概略	治未病の概念の理解、古代九鍼の概略	講義	
	3	日本と世界の東洋医学	日本の伝統医学と中医学	講義	
	4	人体の見方 天人合一思想～五行学説	東洋医学の人体の捉え方と思想	講義	
	5	陰陽学説 1	陰陽論の基礎	講義	
	6	陰陽学説 2	人体における陰陽論	講義	
	7	五行学説 分類と相生と相克	相生・相克と相乗・相侮	講義	
	8	五行分類 1	色体表の分類、五行配当の関係	講義	
	9	五行分類 2		講義	
	10	五行分類 3		講義	
		11	試験		試験
		12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	精(先天の精・後天の精)と神	精と神	講義	
	14	真気的作用および特定の気的作用	気的作用	講義	
	15	血・津液的作用	血的作用、津液的作用	講義	
	16	蔵象の総論	蔵象の考え方	講義	
	17	蔵象の生理 (肝～心)	各臓腑 各臓腑の象徴的役割、生理的機能、他の器官との関連	講義	
	18	蔵象の生理 (脾)		講義	
	19	蔵象の生理 (肺)		講義	
	20	蔵象の生理 (腎)		講義	
	21	蔵象の生理 (六腑)		講義	
	22	蔵象の生理 (奇恒の腑)・蔵象のまとめ	臓象学全体の理解	講義	
		23	試験		試験
		24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	病因 1 (病因の分類/外感病・外因)	病因の分類、外感病、各病因の侵入経路、証候、疾病季節・五臓との関係、内傷病・病理産物病証と五臓の関係	講義	
	26	病因 2 (内傷病・内因と不内外因)		講義	
	27	病因 3 (病理産物・その他外傷等)		講義	
	28	病証とは何か/八綱病証 総論	病証の概論	講義	
	29	八綱病証	陰陽・病位(表裏)・病情(寒熱)・病勢(虚实)の概念	講義	
	30	気血津液弁証 1 (気の病証)	気・血・津液それぞれの循環異常、臓腑・経絡との関連	講義	
	31	気血津液弁証 2 (血の病証)		講義	
	32	気血津液弁証 3 (津液の病証)		講義	
	33	代表的な疾病 (熱病・風病・痛・厥)	熱病・風病・痛・厥	講義	
	34	代表的な疾病 (痺・痿・欬嗽・瘧・積聚・疝・その他)	痺・痿・欬嗽(咳嗽)・瘧・積聚・疝	講義	
		35	試験		試験
		36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野

【科目】 経絡経穴概論－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	船水 隆広	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	あはき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。体表解剖・取穴実習では実際の身体で正確に経穴を取穴していくことを学び、ここでは経脈の名称や流注、経穴の名前を順番通りに覚え、さらに経穴の部位を正確に覚えることによって、取穴するために必要な経絡経穴の知識を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	あはき臨床において正確に取穴を行うために、全身を流れている経絡、全身に存在する経穴の概要を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・経絡の誕生、臓腑の概要、経穴の概要について理解することができる。 ・経穴の取り方に必要な用語について理解することができる。 ・督脈、任脈の順番と流注について理解することができる。 ・手の太陰肺経～足の厥陰肝経の順番と流注について理解することができる。 ・奇経八脈、奇穴の主治と取り方について理解することができる。 ・経絡経穴の現代的な研究について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版経絡経穴概論 (教科書検討小委員会)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 経絡経穴概論－1 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	経絡の誕生～臓腑の概要	経絡の意義と臓腑との関係	講義
	2	経穴の概要（流注と骨度法）	経脈の流注、骨度法	講義
	3	経穴の概要（要穴の概略）	要穴の種類と意味	講義
	4	経穴の取り方に必要な用語、督脈の順番と流注	体表指標示、督脈の流注と順番	講義
	5	督脈 経穴と基準となる経穴と部位	督脈	講義
	6	任脈の順番と流注、経穴と基準となる経穴と部位	任脈	講義
	7	任脈～手の太陰肺経の順番、流注、部位	肺経	講義
	8	手の陽明大腸経の順番、流注、部位	大腸経	講義
	9	手の陽明大腸経～足の陽明胃経の順番、流注、部位	胃経	講義
	10	足の陽明胃経の順番、流注、部位	胃経	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	足の太陰脾経の順番、流注、部位	脾経	講義
	14	足の太陰脾経の部位、取り方	脾経	講義
	15	手の少陰心経の順番、流注、部位	心経	講義
	16	手の太陽小腸経の順番、流注、部位	小腸経	講義
	17	足の太陽膀胱経の順番、流注、部位	膀胱経	講義
	18	足の太陽膀胱経の流注、部位	膀胱経	講義
	19	足の少陰腎経の順番、流注、部位	腎経	講義
	20	足の少陰腎経の流注、部位	腎経	講義
	21	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経の順番、流注、部位	心包経・三焦経	講義
	22	手の少陽三焦経の部位	三焦経	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25	足の少陽胆経の順番、流注、部位	胆経	講義
	26	足の少陽胆経の部位、	胆経	講義
	27	足の厥陰肝経の順番、流注、部位	肝経	講義
	28	奇経八脈	奇経八脈	講義
	29	奇経八脈、奇穴の主治と取り方	奇経八脈、奇穴	講義
	30	奇穴の主治と取り方	奇穴	講義
	31	奇穴の主治と取り方	奇穴	講義
	32	経穴の組合せ	経穴の組合せと主治	講義
	33	経絡経穴の現代的研究	現代的研究	講義
	34	まとめ	十四経脈上の経穴	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 基礎はり学、基礎きゅう学

【科目】 はりきゅう理論

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	はり、きゅう施術で用いる手技や道具、方法に関する事柄や衛生概念、リスク管理を理解し、系統的な「はり」「きゅう」の各施術をおこなうための基礎的知識を養う。
授業の一般目標 (GIO)	衛生的で安全な鍼灸臨床を行うために、鍼・灸の基本知識、施術の意義、基本手技を理解する。また、医学史、特に日本における鍼灸の歴史について理解を深める。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・各施術法に必要な基礎用語と用具名称を理解することができる。 ・技術の名称と意義を理解することができる。 ・施術上の一般的注意から、医療過誤、副作用、感染症対策、禁忌などのリスク管理の必要性を理解することができる。 ・西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう理論 東洋療法学校協会編
参考書	配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	実技で配布されたプリントと照らし合わせて復習すること。

【授業計画】 はりきゅう理論 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	医学の歴史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史	講義
	26	医学の歴史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史	講義
	27	概論・鍼の基礎知識	鍼灸の特徴、鍼の用具、古代九鍼	講義
	28	刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式、術式、手技	講義
	29	特殊鍼法	特殊鍼法	講義
	30	灸の基礎知識	艾、線香の特徴	講義
	31	灸術の種類	灸術の種類	講義
	32	リスク管理	鍼灸療法の適応と禁忌	講義
	33	リスク管理	感染対策	講義
	34	リスク管理	鍼灸療法の有害事象の予防法と対処法	講義
	35	試験		試験
	36	試験解説	試験内容のフィードバック	講義

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技 I

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	深山 千歳	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<p>はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行う。後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、鍼施術を中心として、基本的な鍼灸術動作を行えることを目的に行う。また、正しく取穴ができるように体表解剖を重視しながら、取穴実技を行う。</p> <p>施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	正確かつ衛生的で安全に刺鍼を行えるようになるために、基本的な操作や鍼の基礎知識、必要な衛生的知識、施術者としての心構えを修得する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解することができる。 ・鍼の基本実技を理解し、正確に実践することができる。 ・後期には身体各部位に於いて、鍼施術を中心として、安全に鍼灸施術を行うことを目標とし、正しく取穴ができるように主要な経穴の取穴実技を身につける。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。

【授業計画】 はりきゅう基礎実技Ⅰ 2023年度 鍼灸科Ⅰ部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	1. 鍼灸実技用具の名称、説明 1) 施術上の注意、消毒法、道具の管理など	【知識として】 ・鍼道具の名称・管理 ・施術上の注意事項 ・偶発症と対策 ・消毒法の違い 【実技として】（練習台において） ・片手挿管 ・正しい基本刺鍼動作 ・指定の角度・深度 ・各種の刺鍼法	実技
	2	2. 鍼の基本実技の説明、練習 (1) 刺鍼法の概説、(2) 偶発症と対策		実技
	3	(3) 基本刺鍼練習 ①片手挿管の反復練習		実技
	4	②刺鍼練習台にて刺鍼基本動作の反復練習 ・送り込み法、旋撚刺法、撚鍼法		実技
	5	・直刺、斜刺、横刺		実技
	6	・各手技（17法）の説明と練習		実技
	7	(4) 人体刺鍼（自己下腿刺鍼） ・自己下腿刺鍼の練習	・適切な衛生操作・手指・患部消毒 ・自己下肢	実技
	8	①下肢陽経の刺鍼（胃経を中心に）		実技
	9	②下肢陰経の刺鍼（脾経を中心に） ③下肢への刺鍼（その他の経絡、大腿部）		実技
	10	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 a. 背臥位 陽経	・対人下肢	実技
	11	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 b. 背臥位 陰経		実技
	12	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 c. 腹臥位 陽経・陰経		実技
	13	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 d. 背臥位：足部		実技
	14	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ①下肢 全体復習		実技
	15	前期復習		実技
	16	鍼実技試験1（施鍼基本動作確認）		試験
	17	鍼実技試験2（人体施鍼）	衛生操作、人体刺鍼	試験
	18	試験講評	試験内容のフィードバック	実技
後期	19	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 a. 陽経 1	・主要な経穴 ・対人への適切な施鍼	実技
	20	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 a. 陽経 2		実技
	21	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 b. 陰経 1		実技
	22	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ②上肢 b. 陰経 2		実技
	23	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部 1		実技
	24	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部 2		実技
	25	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部 3		実技
	26	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ④腰殿部		実技
	27	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ③頸肩背部～④腰殿部の復習		実技
	28	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑤肩関節周囲部 1		実技
	29	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑤肩関節周囲部 2		実技
	30	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑥腹部 1		実技
	31	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑥腹部 2		実技
	32	鍼実技試験（対人施鍼）		
	33	試験講評	試験内容のフィードバック	試験
	34	(5) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑦胸部	・主要な経穴 ・対人への適切な施鍼	実技
	35	(6) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑧頭部		実技
	36	(7) 人体刺鍼（対人刺鍼） ⑨顔面部		実技

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技 II

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	宮原 一浩	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<p>はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、灸施術時の注意事項や過誤・副作用などその対処法などを学習する。実技として、前期までは灸実技を中心に灸道具の取り扱いや消毒法なども含めた灸の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な灸施術を中心とした鍼灸施術動作を習得する。</p> <p>施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。灸の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて灸施術を中心として、安全に鍼灸施術が行えることを目標とする。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・灸の基礎知識について理解することができる。 ・基本施灸練習、適切な①艾ひねり②竹上点火を行うことができる。 ・適切な人体施灸（自己下腿）を行うことができる。 ・適切な人体施灸（対人施灸）を行うことができる。 ・人体の各部に適切な施灸動作を行うことができる。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。

【授業計画】 はりきゅう基礎実技Ⅱ 2023年度 鍼灸科Ⅰ部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	灸実技の概要説明 1. 灸の基礎知識 1) 艾について など 2) 灸術の種類について	灸の基礎知識	実技
	2	2. 灸の基礎実技 (1) 基本施灸練習 ①艾ひねり	灸のひねり、米粒大・半米粒大	実技
	3	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		実技
	4	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		実技
	5	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火	竹上にて適切な施灸動作	実技
	6	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		実技
	7	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		実技
	8	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)	自己下腿に適切な施灸動作 (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	9	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		実技
	10	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		実技
	11	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢(陽経)	対人において 下肢の各部に適切な施灸動作 (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	12	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢(陰経)		実技
	13	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢(後面)		実技
	14	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢全体復習		実技
	15	前期試験前の確認・復習		実技
	16	前期 灸実技試験 1	スムーズな艾ひねり、施灸基本動作	実技
	17	前期 灸実技試験 2	適切な対人施灸	実技
	18	前期試験後の確認・復習		実技
後期	19	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢(陽経)	対人に於いて 各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	20	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢(陰経)		実技
	21	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		実技
	22	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		実技
	23	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 1		実技
	24	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 2		実技
	25	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑤腰背部		実技
	26	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑥肩背腰部復習		実技
	27	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 1		実技
	28	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 2		実技
	29	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑧腹部 1	実技	
	30	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑧腹部 2	実技	
	31	後期試験前の確認・全体復習		実技
	32	後期 灸実技試験 1	失眠穴、2点連続施灸	実技
	33	後期 灸実技試験 2	体幹・上下肢、2点連続施灸	実技
	34	試験講評		実技
	35	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑨胸部	対人に於いて 各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	36	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑩頭部		実技

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技Ⅲ(生体観察を含む)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	平野 智子	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義・実習	36回

【授業情報】

授業概要	鍼灸医療は体表面からアプローチすることから、体表観察が正確に行えることは大きな意味をもつ。そこで、身体診察や取穴に必要な体表解剖を理解、触知できることとともに、主要な経穴を正確に取穴できる能力を養う。また、リスク管理の意識を持ち、バイタルサインを理解し、血圧・脈拍の測定を継続的に行い習慣化する。施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	身体診察や取穴に必要なランドマークとなる骨や主要な筋・動脈等を理解し、触知できることで、正確な診察や取穴のできる能力を養うとともに、さらに手足要穴の解剖学的な理解を深め、正確に取穴できる能力を養う。また、バイタルサインを理解し、特に血圧と脈拍を正確に測れる能力を養う。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体各部のランドマークとなる部位(骨)を理解し、触知することができる。 ・身体各部の主要な筋を理解し、触知することができる。 ・身体各部の主要な動脈を理解し、触知することができる。 ・手足要穴について理解し、正確に取穴することができる。 ・バイタルサインを理解し、特に血圧・脈拍について正しく測定することができる。

【担当教員から】

教科書	新版 経絡経穴概論〈第2版〉
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう基礎実技Ⅲ(生体観察を含む) 2023年度 鍼灸科Ⅰ部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
前期	1	1. 取穴授業と体表解剖についての概要説明 2. 体表解剖総論 1)人体の区分、名称など	人体の区分、名称、方向、位置	実技
	2	2. 体表解剖総論 1)人体の区分、名称など 2)人体の方向と位置、重心など		実技
	3	3. 各部の体表解剖 1)体幹のランドマーク 1	脊柱、頭蓋骨	実技
	4	3. 各部の体表解剖 1)体幹のランドマーク 2	胸骨、鎖骨、肩甲骨	実技
	5	3. 各部の体表解剖 2)上肢のランドマーク 1	上腕骨、橈骨、尺骨、肩・肘関節	実技
	6	3. 各部の体表解剖 2)上肢のランドマーク 2	手部、手関節	実技
	7	3. 各部の体表解剖 3)寛骨のランドマーク	恥骨、腸骨、坐骨	実技
	8	3. 各部の体表解剖 4)下肢のランドマーク 1	大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨、股・膝関節	実技
	9	3. 各部の体表解剖 4)下肢のランドマーク 2	足部	実技
	10	3. 各部の体表解剖 5)下肢の主な筋肉・腱・血管	下肢の主要な筋、腱、血管	実技
	11	4. 各部の体表解剖と経穴 1)各部の経絡・経穴の触知	下肢陽経の要穴	実技
	12	(1)下肢 a. 陽経		実技
	13	4. 各部の体表解剖と経穴	下肢陰経の要穴	実技
	14	1)各部の経絡・経穴の触知 (1)下肢 b. 陰経		実技
	15	5. バイタルサイン(血圧・脈拍測定)	脈拍・血圧測定	実技
	16	前期試験前の確認・復習		実技
	17	前期試験：生体観察、要穴取穴		試験
	18	試験後フィードバック、再試験前期復習	試験内容のフィードバック	実技
後期	19	3. 各部の体表解剖 6)上肢の主な筋肉・腱・血管	上肢の主要な筋、腱、血管	実技
	20	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定)	上肢陽経の要穴	実技
	21	1)各部の経絡・経穴の触知 (2)上肢 a. 陽経		実技
	22	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定)	上肢陰経の要穴	実技
	23	1)各部の経絡・経穴の触知 (2)上肢 b. 陰経		実技
	24	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (2)上肢 c. 復習	上肢の経脈、要穴	実技
	25	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (3)頸肩部 1	頸肩部の主要な経穴	実技
	26	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (3)頸肩部 2		実技
	27	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (4)背腰部 1	背腰部の主要な経穴	実技
	28	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (4)背腰部 2		実技
	29	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (5)腰殿部	腰殿部の主要な経穴	実技
	30	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (6)胸腹部 1	胸腹部の主要な経穴	実技
	31	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (6)胸腹部 2		実技
	32	後期試験：生体観察、主要な経穴の取穴		試験
	33	試験後フィードバック、再試験	試験内容のフィードバック	実技
	34	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (6)胸腹部 3	胸腹部の主要な経穴	実技
	35	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (7)頭部・顔面部 1	頭部・顔面部の主要な経穴	実技
	36	4. 各部の体表解剖と経穴 (脈拍・血圧測定) 1)各部の経絡・経穴の触知 (7)頭部・顔面部 2		実技

2023年度 鍼灸科 I 部

【分野】 専門分野

【科目】 臨床実習 I

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	通年	授業形態・回数	講義・演習	23回

【授業情報】

授業概要	<p>鍼灸科附属施術所における臨床見学を通して、鍼灸治療の実際に触れ、はり師・きゅう師としての将来像をイメージすることで、何を学び何が必要とされるのか理解する。また、学外の鍼灸施術所や医療・スポーツ・介護施設等と将来関連すると考えられる臨床現場を見学することで、医療人として幅広い視野を育てるとともに、はり師・きゅう師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会をもつ。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>臨床見学を通して、鍼灸の効果や患者対応などの臨床の実際を認識することで、医療人としての倫理観や臨床能力（知識・技術・態度）の必要性について理解する。そのために、鍼灸医学を学ぶ学生としての自覚を持つとともに、通常の座学および実技授業に対する能動的な学習意識の向上を図ることを目的とする。また、学外の鍼灸施術所や医療関連施設などを見学することで、多様性を理解し、幅広い視野をもって、はり師・きゅう師としての将来像をイメージする力を身につける。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・課題レポートを適切に書くことができる。 ・2年、3年の臨床実習を見学し、学内での到達目標を理解することができる。 ・臨地見学実習にて、指導員や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従うことができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めたことをレポートにまとめることができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>成績評価の基準と算定方法（評価割合） 総合的に判断して60点以上（100点満点中）を合格点とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席率 2. 課題レポート（見学実習記録、デイリーノート、振り返りノートの評価） 3. 実習中の態度・取り組む姿勢など（実習指導者による評価）
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：各々提出レポート（見学実習記録1・2・3・4）、出席率 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床実習Ⅰ 2023年度 鍼灸科Ⅰ部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	見学基礎実習1(臨床実習ガイダンス)		講義
	2	学内臨床見学実習1(附属施術所) ・研修生による施術の見学	研修生の施術見学	実習
	3	・監督教員による施術内容についての説明など (3年実習も一部見学し、概要を把握)		実習
	4	見学実習1-1(附属施術所) ・教員による施術の見学		実習
	5	・施術担当教員による施術内容についての説明	教員の施術見学、施術後の解説 授業内容との関連	実習
	6	見学基礎実習2(臨床実習ガイダンス)	外部臨床実習	講義
	7	体験型見学実習(附属施術所) (患者の立場から、施術全体を体験・見学する)	鍼灸施術者として必要な事	実習
	8	見学実習1-2(附属施術所) ・教員による施術の見学	教員の施術見学や施術後の解説 授業内容との関連	実習
	9	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	10	見学実習1-3(附属施術所) ・教員による施術の見学		実習
	11	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	12	学内臨床見学実習1(附属施術所) ・研修生による施術の見学	研修生の施術見学 2年次の実習内容	実習
	13	・監督教員による施術内容についての説明など (2年実習も一部見学し、概要を把握)		実習
	14	見学実習1-4(附属施術所) ・教員による施術の見学	教員の施術見学、施術後の解説 授業内容との関連	実習
	15	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	16	外部臨床実習1(施術所または医療施設等の見学)	学外のあはき施術所の見学 あはきの多様性や相違点	実習
	17			実習
	18			実習
	19			実習
	20	外部臨床実習3(施術所または医療施設等の見学)		実習
	21			実習
	22			実習
	23	外部臨床実習4(施術所または医療施設等の見学)		実習
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 医学準備教育

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	生体の構造を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造を習得し、その基本的な段階としての代謝、体温調節の仕組み、泌尿器系の構造と機能、内分泌系の構造と機能、女性生殖器の構造と機能について理解を深める。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造について学習するとともに、その名称や機能についても学習する。各栄養素の代謝、代謝によって発生する体温とその調節、泌尿器系における代謝産物の排泄、人体の機能を調節する内分泌系の構造と働き、個体の存続に必要な生殖器系の構造と働きについて学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素の種類と働きについて理解することができる。 ・ 体温調節の仕組みについて理解することができる。 ・ 泌尿器系の構造と機能について理解することができる。 ・ 内分泌系の構造と機能、特にホルモンの種類と働きについて理解することができる。 ・ 生殖器系の構造と機能、妊娠と出産について理解することができる。 ・ 生体リズムと加齢変化・死について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖生理 東洋療法学校協会編
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図 他 配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験90%と小テスト10%で総合的に評価を行う。
成績評価方法	1. 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	解剖生理の教科書に載っているものは必ず復習をすること。

【授業計画】 医学準備教育 2023年度 鍼灸科 I 部

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	スタディースキル	講義を聞いてノートにまとめる	講義
	2	代謝と栄養【概要、糖質】	代謝とは、糖質の働き・代謝	講義
	3	代謝と栄養【脂質、タンパク質】	脂質の働き・代謝、 タンパク質の働き・代謝	講義
	4	代謝と栄養【ビタミン、ミネラル】	ビタミン、ミネラルの働き	講義
	5	体温【概要、産熱と放熱】	核心温と外殻温度、体熱の産生と放散	講義
	6	体温【中枢、調節反応】	温度受容器と体温調節中枢、 体温調節反応	講義
	7	泌尿器系【概要、構造と機能】	泌尿器系、腎臓の構造と機能	講義
	8	泌尿器系【構造と機能】	尿の生成、腎機能の測定	講義
	9	泌尿器系【構造と機能】	尿組成、pH調節、 尿管・膀胱・尿道の構造と機能	講義
	10	泌尿器系【排尿】	神経支配、畜尿、排尿	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	内分泌系【概要】	ホルモンの種類、内分泌系の特徴	講義
	14	内分泌系【視床下部と下垂体】	視床下部ホルモン、 下垂体前葉・後葉ホルモン	講義
	15	内分泌系【甲状腺と副甲状腺】	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン	講義
	16	内分泌系【膵島、副腎】	膵臓のホルモン、副腎のホルモン	講義
	17	内分泌系【その他のホルモン】	その他のホルモン、体液調節	講義
	18	生殖【女性生殖器】	女性生殖器の構造、卵胞と黄体	講義
	19	生殖【性周期】	性周期、乳汁の産生と分泌	講義
	20	生殖【男性生殖器】	男性生殖器の構造、男性ホルモン、 精子の形成	講義
	21	生殖【妊娠と発生】	妊娠、胎児の発育、分娩	講義
	22	身体に加齢変化	生体のリズム、成長と加齢	講義
	23	試験		試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			